

神戸市立歌敷山中学校3年
山下 愛貴

私の祖母はよく笑う人だった。冗談好きで元気な祖母は家族の人気者で、そんな祖母と年に数回一緒に公園に行ったり、お正月にお餅をこねたりするのはとても楽しかった。しかし数年前、祖母は認知症になった。

初めの頃は、私のことが誰だか分からなくても以前のようにニコニコ笑って出迎えてくれていたが、次第に口数も笑顔も減っていった。そしてコロナで会いに行けなくなり二年後会いに行った時には全くの無表情になり、一人でトイレに行くこともお風呂に入ることもできなくなってしまっていた。

もう祖母の笑顔を見ることはできないのだと悲しい気持ちになった一方で、祖母を一人で介護する祖父のことが心配になった。私達家族も父の弟家族も遠くに住んでいるため頻繁に帰省することはできない。祖父一人で祖母の身の回りのお世話までできるのか、祖父の身体は大丈夫なのだろうか、不安や心配が募るばかりだった。

ある時祖父母の家に行くと、玄関やお風呂、トイレなどに手すり取り付けられていた。さらに祖母がつまづかないように家の中の段差も直して介護しやすいようにしたいと祖父と父が話していた。そんな話を聞きながら私は、「どれくらいの費用がかかるのだろうか？ 相当な負担になるのではないか。」と疑問に思い父に質問すると、「全額ではないけれど介護保険から補助金が出る。」ということを知ってもらった。住宅改修だけでなく祖母が利用している訪問介護、デイサービス、ベッドのレンタルなどのサービスも介護保険から受けているそうで、祖父はそのサービスのおかげで体の負担が軽減され、なんとか一人でも介護できている、ありがたいと言っていた。

祖母の介護によって、これまで何に使われているのか知らなかった税金の一部が、自分の大切な人のために使われているということを感じることができた。

私たち中学生も医療費や就学、日々の生活で様々な支援を税から受けている。それについてありがたいと思ったことはあったらどうか？ 「国民の権利」として当然と思っているのではないだろうか。自分で働いたお金で税を納めていない立場で税の恩恵を受けている私達は、将来納得して納税するために今、税についての知識を深める必要があると思う。

テレビや新聞では、増税や使い道について厳しく報じることが多い。確かに無駄遣いではないかと思われる内容もある。しかしまずは、今自分達は税からどのような支援を受けているのか、自分の大切な人が受けている支援や将来自分が受ける支援について、人の意見に左右されず、自分自身で調べ、その支援を継続するために必要なことを理解しなければならない。

税金は自分に関係ないものではなく、みんなが幸せに過ごせる社会に必要であること、将来自分達が納める税金がその一役を担うということを知り、これからも税についての知識を深めていきたいと思う。